

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 4年 6月11日
(109号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学講座
第116講

「沈黙の響き」
宇宙から私たちに送られているメッセージ
神渡良平先生



■ 徳永康起先生と炭焼きの子

三年ほど前私は心臓の手術をしました。八時間にも及ぶ手術で生きるか死ぬかの思いでした。心臓の機能が四〇%も落ちており、緊急手術となったのです。そんな経験から、私は「沈黙の響き」を思うようになりました。沈黙とは音がないのではない、響きがある。自分の耳を澄ましておれば、その沈黙の向こうからメッセージが届いてくる。この沈黙の響きに耳を傾けてこそ、物事の本質が見えてくるのではないだろうか。

私の七四冊目の本『人を育てる道』は伝説の教師徳永康起を書いているのですが、この徳永先生は、沈黙がメッセージを伝えるということを若いころから自覚していました。学校を出て最初に赴任したのは宮崎県の山奥の小学校の分校でした。そこに柴藤君という炭焼きの子供がいました。親を手伝い焼きあがった炭を運んでいるので、学校にもあまり通えず、成績も良くなかった。そのためみんなから馬鹿にされ、鬱屈した気持ちから喧嘩をしてしまう。あるとき取っ組み合いの喧嘩の仲裁に入った徳永先生は柴藤君に言いました。「今日は先生は宿直だから君も泊まらないか。君を抱いて寝よう」。柴藤君は風呂にも入っていないから臭い。その日は宿直室のお風呂できれいにしてもらい、夜は先生と休みました。貧しい家で成績も悪く、誰からも相手にされなかった柴藤君の心はすっかり荒れていましたが、先生に抱かれ

て眠ることでそのような気持ちは溶けていったのでした。

■ 恩師を探して

戦争が始まり、彼は満州に送られました。その後シベリア抑留となり、四年間そこで重労働をするのですが、その間も柴藤君は皆の世話を積極的に行いました。死にゆく人も多い中で、彼は抑留が解かれるまで生き延びることができたのです。その後伊万里の自動車学校に就職し、戦争孤児たちを引き取って生活を始めました。昔の自分のように貧しい子たちを助けてゆく、そんな活動が表彰され、新聞に載りました。そのとき柴藤君は「小学生だったときに、私を抱いて寝てくださった先生がおられる。あのおかげで私は立ち直れた。先生にお会いしたいけれど今は連絡先もわからない。もしこの記事を見ておられたなら」。徳永先生はその記事を見て会いに行かれた。「先生お陰様で、自分は立ち直ることができました。戴いた表彰状と記念品は私ではなく、先生が受け取ってください」と言われたそうです。

■ 人間は宇宙の神秘を開く鍵

私たちにとっての父母は、命を与え、育ててくださった貴重な存在です。先生は子どもたちに、父母に命を授かった感謝を伝えること、そして、命をおろそかにしてはならないことを伝えていました。命のパイプをつなげることによって、自分の足が大地につき、そしてさらに主体性を持つて進んでゆくことができるでしょう。

あるとき、女生徒が徳永先生に泣きながら話をしました。「私の父は家を出てゆきました。そして今度は母が私を捨てて出てゆき再婚しました。しかも赤ちゃんまで生まれている。私はどうすればよいのか」。徳永先生はすぐ答えることができませんでした。「お母さんにも事情があったので

しょう、誰かを責めることはしないでしょう。これからは先生がお母さんの代わりをしよう」と約束されました。教室に大きく掲げたクラスのモットーは「自分の主人公は自分」でした。先生はその生徒に「どんなことがあったとしても、最後の行動を決定するのは自分だよ。ここで投げ出さずに受けて立とう」と話すのです。そして坂村真民先生の『リンリン』という詩を伝えました。

燐火のように／リンリンと／燃えていなければならない／鈴虫のように／リンリンと／訴えていなければならない／禅僧のように／リンリンと／鍛えていなければならない／梅花のように／リンリンと／冴えていなければならない

人を責めずにリンリンと生きていこう、と生徒を励まされたのです。やがてその子が中学を卒業し、高校に入学した日の夕方、先生のところへ「大変なことが起きた、奇跡だ」と駆け込んできました。その子のお母さんが入学式に来てくれていたのです。

大阪の生んだ偉人安岡正篤先生が「人間は宇宙の神秘を開く鍵だ」と言われました。一人一人の個性を開くことは、宇宙の神秘の扉につながる。徳永先生はまさに自身の教育実践を通して、一人一人の宇宙の神秘の扉を開かれたのでしよう。私たち一人一人もまた宇宙の扉を開く鍵を授かってこの世に生まれている。だから自分の使命だと思うものに心を込めて取り組んでいくことで、それが二〇年三〇年と経つうちに、カチリと音がして宇宙の神秘の扉が開かれるように思います。ご自身の持ち場において、沈黙の響きに耳を傾けつつ、自分のできる限りのことを行っていたならば、自ずから私たちのあとには、忘れ去られることのないものが残していけるのではないのでしょうか。

(抄録 中川千都子)

《感動語録集》

◆ 神渡良平 先生

「沈黙の響き——宇宙から私たちに送られているメッセージ」

- * 沈黙の響きに耳を傾けること。
- * 自分のことを決めるのは自分。
- * 一人ひとりが天から封書をいただいている。
- * 自分の使命と取り組んだことは、実を結ぶ。
- * 自分の主人公は自分。
- 最後は自分だよ、全て受けて立とう。

* 沈黙の響きを聞くことで、神秘的なメッセージが聞こえてくる。

* 沈黙は音がないのではない、響きがある。心を傾けて聴くと物事の本質が聞こえる。

* 寮生の規律違反は、責任者にあり、本当の意味で導いてやらなかったためだ。

* 本当の温かさとは、そのままの自分を受け容れること。沈黙の中で、感情を育てる。

* 「障がい者」がいることで、他人に幸せを与えている。

* 「教え子みな吾が師なり」 徳永康起先生

* 愛の素晴らしさを痛感しました。

* 沈黙は聞こえない音ではない、よく耳を澄ませば沈黙の響き、大切なメッセージを感じる取ることができ

* リンリンとした人生を歩もう。

* 宇宙の響きに耳を傾けると、メッセージが聞こえてくる。



葉がいつぱいでした。

* いろんなことがあっても、最後の行動を決めるのは自分自身。

* 自分の持ち場で、自分のできる限りのことをすることに努める。

* 一隅を照らす力の凄さ。

* セキレイのお話を聞いて、親の愛は無償の愛であると改めて感じました。

* 自分の使命と思ったことに飛び込むと、何時か後に花ひらく。

《森 信三先生に学ぼう!!》

★ 断

人に長たる人において最も重要な資質は、一方では多くの人々を容れる包容力であると共に、さらにいまひとつの資質として、「断」を下しうる処がなくてはならぬからである。けれど「断」は現実界における決断、決定の力といってよく、随ってもしこの「断」を下すことができなかったとしたら、現実界において事業の成功は絶対に見難いといってよいであろう。

★ 日の目

人は一時期下積みになっても、それは将来の土台づくりであり、一時の左遷や冷遇は、次の飛躍への準備期であり、忍耐力・持久力の涵養期として隠忍自重して、自らの与えられたポストにおいて、全力発揮を怠らなかつたら、いつか必ずや日の目を仰ぐ日があることを確信して疑わないのでありまして、これが八十有余年の生涯を通してのわたくしの確信して疑わないところであります。

★ 繁栄律

親を軽視するものは、実は己自身をさげすむわけであり、おのが運命を呪うものともいえましょう。それゆえまた親を敬愛するものは、自分自身を敬愛することになり、自己の運命の繁栄律につながることを改めて知らねばならぬのであります。

(森 信三先生

『運命を創る一〇〇の金言』より)

《わたしのハガキ道》

田中 檀子

人間学塾 五月の講座講師は神渡良平先生、テーマは「沈黙の響きー宇宙から私たちに送られているメッセージ」

開塾迄時間があり薔薇展へ、大きく咲く色鮮やかな薔薇の花は見事に咲いている。森 信三先生は「冬に咲く白い薔薇が良い」と言っておられました、白い薔薇は少なく、やはり冬が良いと思いました。

人間学塾五月の講座も済んだ帰り際、代表より、「頂いた、はがきで嬉しかった・良かった」と思ったことを・・・、とご依頼がありました。

このお葉書なら何人様にも届いていると思い選びました。

昨年三月三十一日、寺田先生のご逝去はコロナ禍の中で何もできず、せめて初盆にはご仏前にお参りを：と思っていました。がコロナ感染が治まらず、寺田家にお供えの品をお届けしました。

寺田先生は初盆です。寺田家の皆様が揃っておられるご仏壇にお帰りのなさったと思います。お盆が終わると寺田家ご一同様からのお葉書が届きました。六地藏様の絵はがきに・・・!!

亡父の初盆を

無事済ませることが出来ました。

おかげさまで

ありがとうございます。

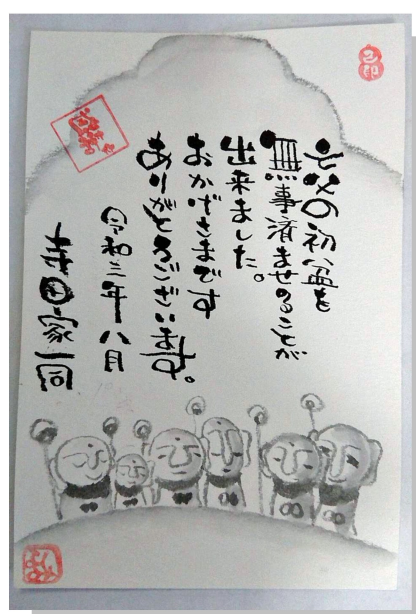
令和三年八月 寺田家一同

黄泉の国に帰る六地藏様の一番小さな地藏様は寺田先生としました。

お盆供養の新参者の寺田先生は小さくなっておられ、悲しそうに見えます。

令和四年五月十五日第十回合同読書会開催会場内で

「寺田先生の・・・」 「寺田先生は・・・」をよく聞き、先生は見えてなくても此処に来ておられる。今もって、なおご活躍なさっておられることを感じるのには、「沈黙の響きー寺田先生から私たちに送られているメッセージ」でしょうか。



《塾生の本棚から》

土屋 章

『未知よりの薔薇』

竹本忠雄 著

「執行草舟絶賛！ 壮大な魂の叙事詩。生涯を深奥世界のミステリー探索に賭した男の勇気と、哀しみと、脅威に満ちた二十一世紀の黙示録」。この書籍に対しての「帯」に記されている執行草舟先生の推薦文である。どんな魂が隠されているのだろうか？

著者の竹本忠雄先生は、筑波大学名誉教授、仏文学者で御年九十歳を迎える。『未知よりの薔薇』は全八巻から構成される。上皇后美智子さま、アンドレマルロー、ダライラマ、鈴木大拙、出光佐三、三島由紀夫、石原慎太郎など、時代を代表する著名人たちと交流を持つ

奇跡的な体験を記した魂の自伝である。偶然と呼ばわれているものを偶然とすれば終わりで、徴(しるし)と受け取ったとき偶然は別物になる。仏教用語ではそのことを「指弾」という。「パチツ」と指を弾くことである。パソコンに例えると指弾は「クリック」にあたる。そのきっかけを捉えることが出来れば鏡の奥に入っている。華厳経は善財童子が色々な菩薩の導きによって指弾により見えない世界(真理の世界)に入っていく物語である。

ジャンヌダルク、出光佐三、稻盛和夫などの多くの偉人は、徴(しるし)を受け取った超越的性格の人々である。この本には鏡の奥に入っているヒントが記されている。

二十一世紀の宿題は、「死は終わりではない」「超越世界(神々)は存在する」とであると説く。

『未知よりの薔薇』で期せずしてこれらの二十一世紀の問題に挑戦し、神秘世界に入っていたという。執行草舟先生が、この本はまさに「二十一世紀の黙示録」と評した謎が解けた。「死は生なり」。今一度精読し、限りなく続く生命「魂の成長」に繋がりたいと思う。



出版社：勉誠出版
『未知よりの薔薇』 全八巻
頒価 17,800円
第一巻 『由来編』
頒価 2,200円

《人間学塾・中之島》次月日程

【7月日程】

◆ 日程 7月9日(第二土曜)

受付 午後0時～

◆ 会場 大阪市中央公会堂

大会議室(地下一階)

◆ 講師 岩崎順子氏

「辛かった時間は いつか宝の時間」



和歌山県海南市生まれ。公益財団法人和歌山県人権啓発センター登録講師。一般社団法人京都グリーンフック協会講師。有限会社「こどもふくのティンクル」株式会社「糸幸呉服店」を経営。自宅でガンのため他界した夫、その傍で泣いて震えていた3人の幼い子ども達。あることがきっかけで、父親の顔にさわり横に寝転んで最後には子ども達が父親のおなかの上に馬乗りになって遊びました。いのちを頭でなく、その時に聴いた声、触れた感触、匂い、見たもの、五感で体験した時間。ガンが病気という枠を超えて見せてくれたもの、気づかせてくれたこと。生きているのではなく生かされていたことに気づかせられていく日々。その体験を話したことがきっかけで、その後『ガンが病気になるまで』を青海社より出版。全国1000ヶ所以上で講演。

【卒塾文集寄稿原稿提出の件】

* 刊行 8月13日予定

* 原稿文字数は、一五〇〇文字以内

* 詳細は、提出案内を参照ください

【第十期卒塾式】

* 8月13日(第二土曜)

* 大阪市中央公会堂(大会議室)

【第十一期入塾案内】

* 入塾申込書配布

お一人でも多くの方への案内をお願いします。

《芳信抄》

埼玉県 山下武彦様

比田井先生のご講話で、大切なことは、具体的な目標を定め、手段を選び、実行していくことと納得しました。

「感動語録集」よくよく考えてみると、それは全て森信三先生の教えに合致していることが判りました。

「挨拶」「掃除」「素直」は、「朝のあいさつ人より先に」「脱いだクツを揃える」「ハイの返事」と根本的に同じですね。「社会から求められる人になる」「社会生活を明るくならぬためにする人になる」ですね。

埼玉県 大出雅一様

「幸せの人生」と聞くと、物質や金銭に恵まれて生活できることを連想する人もいるかも知れない。しかしそれは自分のみを充たされる自己限定の幸せにしか過ぎない。「人を喜ばす」広く考えれば社会を幸せにすれば多くの人に感謝され、自己限定の幸せより遥かに大きな幸せになる。社会が喜んでくれる人間というのは、常に少しでも人に喜んでくれる人間に働いてあると思う。マニュアルをこなす人より、それを超えるために使う人を育てると言われた比田井先生のお話しを以上のように受けとめた。

宮城県 加藤秀夫様

上田情報ビジネス専門学校の経営方針の中に、三つの約束「挨拶」「掃除」「素直」の実践項目を伺い人間性の向上は、人間学塾の目標でありますね。

岡山県 柴田久美子様

比田井先生の抄録に大きな学びを頂きました。私どもの事務所に七十四歳のスタッフさんが、本日のお弁当の時間に同じことを教えてくださいました。師はたくさんいらつしやることに喜び感謝します。

愛媛県 桂 誠司様

比田井先生の「やり方」と「あり方」、生徒の主体性を育てる。というのは素晴らしい教育ですね。僕は仕事を始めた時に、十云われて十するのが業務で、十云われて十一か十二するのが仕事だと教えられました。今はネットを鵜呑みして、自分の頭で考えない若者が多くなってきました。ですから、まず自分の頭で考えて、主体的に動く人を育てるということは、大変素晴らしいことだと痛切に感じます。

愛知県 坂部智一様

「君と仕事ができ良かった」と言われなくても思っていただけの人になりたい。約束の実践の大切さを教えて頂きました。

こちらはツバメがやってきて、昨年壊れた巣を修理して昨晩は寝ていました。二羽の姿を見たのですが、昨日は一羽でした。毎朝見上げることに楽しみです。「あり方」を学んでまいります。



「卒塾文集」寄稿原稿準備できていますか?

森信三先生が仰っています。

締切6月末日



仕事に取り組む方法論としては、①仕事の大小、軽重をよく認識し、仕事の手順をまちがえないこと、とりわけ小事を軽んじないことが大事であります。②できるだけ迅速にして、しかも正確を期するよう努めること。③常に問題意識を持ち、仕事の処理に関する創意工夫を怠らないこと。④他との協調・協力を惜しまないこと。⑤更に結実の成果を上げることが必然であり、常に会社なり、組織体への貢献度の如何が問われるわけであり。

森 信三